

2024年5月10日（金）：世田谷区「ひだまり文化研究会」

## 日本美再発見

### 「尾形光琳～琳派の美学～」

#### 講義レジュメ

講師：斎藤陽一（美術ジャーナリスト、美術史学会会員）

#### 《イントロダクション～「琳派」とは何か～》

◎活躍時期が異なり、師弟関係もなく、世襲でもない俵屋宗達（生没年不詳。桃山時代～江戸初期）、尾形光琳（1658～1716）、酒井抱一（1761～1828）という個性的な絵師たちが、時を隔てながらも、先達への「私淑」という形で継承されてきた独特の美意識の系譜をいう。

◎今回は、「琳派」の代表的な画家・尾形光琳を取り上げる。

#### 《尾形光琳～琳派芸術の完成者～》

##### 1. 尾形光琳とは？

◎俵屋宗達の約百年後、江戸時代前期に登場した尾形光琳（1658～1716）は、宗達・光悦に私淑し、その様式を継承しながらも、自らの個性にもとづく独創的な絵画世界を開花させた。

##### 2. 尾形光琳の生いたち～画家になるまで

◎京都有数の呉服商「雁金屋」の次男として生まれたが、若い頃、放蕩三昧に明け暮れる日々を送って財産を使い果たしてしまい、絵師の道に進んだ。

### 3. 尾形光琳「燕子花図屏風」を読む

◎尾形光琳前期の代表作「燕子花図屏風」には、光琳の特質が随所にきらめいている。

◇尾形光琳「燕子花図屏風」（18世紀前半。国宝。六曲一双。

各 151.2×358.8cm。東京・根津美術館）

※2024年4月13日～5月12日まで根津美術館で特別公開

### 4. 尾形光琳 晩年の傑作「紅白梅図屏風」を読む

◎尾形光琳は、宝永元年（1704年。47歳）に江戸に赴き、5年間、江戸に滞在、宝永6年（1709年。52歳）に京都に戻った。

◎尾形光琳が晩年に描いた傑作が「紅白梅図屏風」である。じっくりと読んでみる。

◇尾形光琳「紅白梅図屏風」（18世紀。国宝。二曲一双。

各 156×172.2cm。熱海・MOA美術館）

※熱海梅林に梅が開花する時期、MAO美術館で特別公開

### 5. 光琳デザインの展開～生活空間を彩る芸術～

◎尾形光琳の画業は、絵画と工芸の垣根をとびこえたところで展開された。

◇尾形光琳・画「白綾地秋草模様小袖（“冬木小袖”）」

（18世紀初め。重文。東京国立博物館）

◇尾形光琳・画「流水図乱箱」（18世紀。個人蔵）

◇尾形光琳・画「八橋・秋草図団扇」（18世紀前半。東京・畠山記念館）

◇尾形光琳・作「八橋蒔絵硯箱」（18世紀。国宝。東京国立博物館）

（終）